

Newsletter No.32

●E-ディフェンスの挑戦 —建設から活用へ— 小川 信行（防災科学技術研究所）

●部門長就任挨拶 第81期部門長 木村 康治（東京工業大学）

第81期機械力学・計測制御部門の部門長への就任に際して、一言ご挨拶申し上げます。当部門は、対象とする分野、関連する領域が広範囲であること、部門活動度がきわめて高く、機械学会の中でも基幹的な役割を担う部門の一つとして発展してきたことに、特徴があります。部門の活動を支えてくださった歴代部門長、部門運営委員、部門登録会員の皆様に、心から感謝申し上げます。その部門長を拝命し、責任の大きさを痛感しております。学会や社会への部門の寄与を考えると、部門の発展は不可欠と思われれます。一層の活性化と発展を目指して全力を尽くす所存ですので、よろしくごお願い申し上げます。部門の大切な役割として、ディスカッションの場の提供があります。現在、部門所属の1分科会と31研究会が、それぞれ特徴を生かした活動を行っています。最適な討論の場ですので、関心のある皆様は、是非各研究会へご連絡、ご参加下さい。大歓迎です。また皆様ご承知のように、情報交換型の講演会として誕生したD&Dは、部門で最も重要な活動として定着し、最大規模の討論・交流の場となっております。充実したD&Dを実現することが部門の使命であると認識しております。

さらに、前項に密接な関連がありますが、異分野間の交流を大切にしたいと考えております。他学会との共催行事につきましては、これまでも国際会議、シンポジウム、連合講演会などが活発に行われてきました。一層の推進が望まれます。部門間のジョイントについては、主に年次大会の諸企画で実現されてきましたが、複数部門が協力して設置する分野横断型の分科会（P-SCC）などにも取り組みたいと思います。産業界と大学間の交流については、大学を取り巻く環境の変化も一因ですが、今後さらに重要性が増すと考えられます。共通の問題を学会で採り上げて共同研究を行う形の分科会（RC, RC-D）にテーマを提案していきたいと思っております。一方、部門の中でも、異分野間の交流を、さらに活発に進めることが重要と考えられます。身近な仲間に声をかけてみようではありませんか。意外な発見が新しい企画につながるかもしれません。

部門の運営の観点から申しますと、今年度は、学会の新しい会計処理方法が適用される元年となりました。部門財政の立場からは甚だ厳しい内容ですが、学会会員数の減少という学会全体の問題が背景にあります。このような中で、活動度の高い機械力学・計測制御部門に対する期待は一層大きいものがあります。部門の常設委員会である、総務、広報、表彰、講習会企画、出版の各委員会では、新たな企画の立案に取り組んでおります。時代の要請と環境に合致した、将来展望と新しい積極策を模索していきたいと考えております。

部門の皆様のご提言とご協力を切にお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

●部門長退任のご挨拶 第 80 期部門長 近藤 孝広 (九州大学)

第 80 期の部門長を退任するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。昨年 4 月に大任を引き継いでから早 1 年が経過いたしました。その間、夏場に体調を崩して各方面にご迷惑をおかけするようなこともありましたが、地方在住の部門長を献身的にサポートしていただいた部門幹事の高原弘樹先生（東京工業大学）をはじめ常設委員会の委員長・幹事の方々並びに部門運営委員会の委員の皆様、当部門に登録しておられる皆様方、さらに第 80 期から新たに部門担当になられた事務局高橋正彦様のご支援とご協力のおかげで何とか大役を全うすることができました。心より御礼申し上げます。

振り返ってみますと、第 80 期は学会本部から提案された新しい部門会計処理方針への対応に追われた一年であったように思います。これまで機会あるごとに皆様に状況を訴えて参りましたのである程度はご理解いただけているかと思いますが、今回の提案は当部門のように活動度が高く登録会員数も多い部門にとっては非常に厳しいものとなっています。そこで、部門として修正意見を提案するなどできる限りの働きかけを行いました。大勢の理解を得るには至らず、骨子はほぼ原案のままの方針が第 81 期から実施されることになりました。その結果、ここ暫くは学会本部からの「部門交付金」と学会本部にお支払いする「管理費並びに事務経費」がほぼ均衡する状態が続くことが予想されます。

そのような状況に備えて、第 80 期運営委員会では部門の財政基盤を確立するための対策についても検討いたしました。まず、現在の厳しい経済情勢のもとで定常的な収入を確保するには部門最大の定例行事である D&D 講演会に頼るほかないということで、参加登録料その他を値上げさせていただくこといたしました。また、支出の抑制を図るために、ニュースレターの PDF 化や分科会・研究会補助金の減額等についてアンケート調査に基づく検討を行い、結果を第 81 期運営委員会に引き継ぎました。これらの対策はいわば消極的な対策で望ましいものとはいえませんが、諸般の事情をご賢察の上、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。第 80 期の任期中に積極策の立案にまで至らなかったのは心残りですが、これに関しましては第 81 期以降の活動に期待したいと思います。

以上のように、当部門を取り巻く状況には予断を許さないものがありますが、部門に登録しておられる皆様方の献身的なご協力のおかげをもちまして、支部・部門活性化委員会が行った部門活動評価では、当部門は現時点で最も活動度の高い部門の一つと評価されております。その一例を挙げますと、第 80 期には部門主催の国際会議が 2 件（ACMD '02 および MOVIC 2002）開催され、いずれも多く参加者を得て好評を博しております。これらの国際会議をはじめとする部門関連行事の開催にご尽力いただいた皆様方、とりわけ国際会議の実行委員長を務められた清水信行先生（いわき明星大学）および水野毅先生（埼玉大学）に厚く感謝申し上げますとともに、現在の活動度の維持・向上のために、今後とも部門の皆様方の更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、今後の当部門の益々の発展を心よりお祈りして、退任のご挨拶とさせていただきます。

●[在外研究報告 Virginia Polytechnic Institute and State University](#) 安達 和彦 (神戸大学)

【講演会・国際会議等のご案内】

●第8回運動と制御の振動シンポジウム (MOVIC 2003) のお知らせ

当シンポジウムは、隔年開催の国際会議 MOVIC と交代で開催される「運動と振動の制御」全般に関わるシンポジウムです。今年は143編と多数の講演申込を受け付けました。精密機械から建築・土木構造物まで、制御理論応用からニューロ・ファジィまで、幅広い領域の研究成果が多数発表されます。皆様の参加をお待ちしております。

開催日

2003年10月30日(木)～11月1日(土)

会場

中央大学駿河台記念館 (JR中央線お茶の水駅3分)
〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5
電話 03-3292-3111 (代表)

講演会プログラム

下記の「講演会ホームページ」にプログラムが掲載されております。ご照覧下さい。

特別講演

日時

10月31日(金) 13:15～14:45

講師

名古屋市立大学院芸術工学研究科 川崎和男教授

演題

未定

略歴

1949年福井県生。金沢美術工芸大学卒。医学博士。専門は3D-CAD/CAMとメディアインテグレーションによるプロダクトデザイン開発。グッドデザイン賞総合審査委員長。国内外の主要なデザイン賞多数受賞。海外の主要美術館に永久収蔵展示多数。

若手・学生向けチュートリアル企画

日時

11月1日(土) 9:30～16:30

講師

元(株)コマツ 田島洋氏

表題

「運動方程式の立て方七変化～あなたの知らない3次元運動力学の世界～」

内容

いわゆる「ニュートン力学」の物理的な含蓄は深く広い。本チュートリアルでは、「力のつりあい」「ラグランジュの方程式」だけにとどまらない、運動方程式の様々な導出過程を学ぶことで、一見単純な古典力学の世界を再構築し、力学のより深い理解を得ることを目的としている。マルチボディ・ダイナミクスへの展開も視野に入れた講義を行う

参加費

学生員 2000円 (講演会参加者は半額)

一般学生 4000円 (同上)

正会員 10000円 (同上)

機器展示

会期中、会場同フロアにて機器・カタログ展示会を設定しております。特に今回は、機器展示にご出展頂いた企業様に出展物のアピールをして頂くための「展示企業プレゼンテーション」の時間を設定しております（10月30日15:00～15:30）。出展の申込〆切は8月25日ですが、会場に余裕があれば以後も受け付けます。詳しくは下の「問合せ先」にご相談下さい

懇親会

日時

10月31日（金）18:00～20:00

参加費

学生員 2000円

正会員 5000円

問合せ先

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部機械工学科 背戸一登／渡辺亨

電話・FAX 03-3259-0741（背戸）・03-3259-0741（渡辺）

電子メール seto@mech.cst.nihon-u.ac.jp（背戸）

toruw@mech.cst.nihon-u.ac.jp（渡辺）

（渡辺）

講演会ホームページ 随時更新して参ります。

<http://www.mech.cst.nihon-u.ac.jp/studies/seto/movic03/mov.htm>

●ジョイント・シンポジウム2003 スポーツ工学シンポジウム、シンポジウム：ヒューマン・ダイナミクスのお知らせ

日時

2003年11月8日（土）～11月9日（日）

会場

安田女子大学（広島市安佐南区安東6-13-1）

実行委員長

友末亮三

今年のジョイント・シンポジウムは、トレーニング科学研究会と合同で行うことになりました。この2つの研究集会は、いずれも設立されて今年で15年になり、その目的もスポーツそして人間を対象とし、現場に役立つ研究を推進していくという点で一致しています。

しかし、複雑な人間を対象とするだけに、一分野の手法だけでは限界が訪れます。ふだんあまり交流が行われていないような研究分野にも目を向け、共通の法則性を見出していく…というスタンスも必要になって来るはずですが、このたびの研究集会は、そのきっかけをつかむためのひとつの機会となることを願って企画されました。テーマは「人間を科学するー複雑系へのチャレンジ」です。

研究発表はそれぞれ別々の部屋で進行して行きますが、片方の研究集会に登録をすれば、どちらの研究集会にも参加でき、特別講演とシンポジウムは同じ部屋に集まって合同で行う、という形式です。特別講演とシンポジウムの内容は、いまのところ次のように予定しています。

●特別講演

「巧みさへのチャレンジスポーツスキルの客観的可視化」
堀井清之（白百合女子大学教授）

●シンポジウム

「スポーツ科学の目的と15年間の歩み」

平野裕一（東京大学助教授）

三浦公亮（東京大学・宇宙科学研究所名誉教授）

さて、今回の会場は地方都市広島です。そこで、広島で生まれ育ち全国へ広がって行ったものを、いくつか紹介しておきましょう。大きいものでは、ロータリーエンジン、石油掘削機、立体駐車場、小さいものでは、防犯カメラ、電子蚊取り器、輸血用注射針、お好み焼ソースなど…。

そして、広島への足ですが、東京方面からおいでの場合、広島空港が市内から遠く、新幹線の方が便利かなという気がします。のぞみで4時間かかりません。もう一つの広島西空港は市内にあってたいへん便利なのですが、高知、新潟、小松、関空など、一部の地域としかつながっていません。関西方面の方は、車で来られるのも一つの手ですね。中国縦貫道でも山陽自動車道でもどちらでもOK。混み合うことはほとんどありません。

ことしの11月8日、9日の2日間は、この合同研究集会のために、あけておいていただければ…

お問い合わせ先

広島市安佐南区安東6-13-1 安田女子大学 友末亮三

TEL・FAX : 082-878-7862

Email : tomosuer@nt.yasuda-u.ac.jp

概要は日本産業学会スポーツ工学専門分科会ホームページ <http://www.hei.mei.titech.ac.jp/~jsea>でもご覧になれます。

●Dynamics and Design Conference 2003 開催のお知らせ

総合テーマ：「長崎から偏西風にのせて．．．」

（機械力学・計測制御部門 企画）

協賛

計測自動制御学会，システム制御情報学会，自動車技術会，情報処理学会，人工知能学会，精密工学会，電気学会，電子情報通信学会，土木学会，日本音響学会，日本建築学会，日本原子力学会，日本航空宇宙学会，日本神経回路学会，日本スポーツ産業学会，日本造船学会，日本鉄鋼協会，日本トライボロジー学会，日本ファジィ学会，日本フルードパワーシステム学会，日本ロボット学会，バイオメカニズム学会，日刊工業新聞社

開催日

2003年9月16日（火）～20日（土）

会場

長崎大学文教キャンパスほか（長崎県長崎市）

開催趣旨

本年も、機械力学・計測制御部門の部門講演会であるDynamics & Design Conferenceを開催いたします。今回は長崎大学吉武裕先生・下町多佳志先生のご理解とご協力により、長崎大学で開催することになりました。日本における近代工業の発祥の地である長崎に集い、そこで議論した成果を偏西風にのせて全国に持ち帰って頂くことを祈念して、今年のテーマを設定いたしました。また、例年通り、様々な

分野にわたる多くの講演の他に、特別講演をはじめとする多彩な付随行事を企画しております。とくに、鎖国時代における文明の窓口として若者達の憧れの地であった長崎での開催を記念して、学生向け講習会「第1回夏の学校」を併せて開催いたします。これらの講演会や講習会において知的な刺激と興奮を共有するとともに、教育や技術開発に関する問題点について広く意見交換を行う場としてご活用いただけますよう、実行委員会委員一同多数の皆様方のご参加をお待ちしております。

－付随行事案内－

[特別講演]

日時

9月18日(木) 14:40～15:50

題目

海軍伝習：近代科学の組織的導入

講師

長崎大学 大学院 医歯薬学研究科 教授 相川 忠臣

日時

9月18日(木) 16:00～17:10

題目

クルーズ客船の設計・建造技術

講師

西部造船会 会長(三菱重工業_長崎造船所 元所長) 福島 昭二

[学生向け講習会]

第1回夏の学校：非線形系のダイナミクスと制御

日時

9月19日(金) 13:10～21:00

9月20日(土) 8:30～12:00

場所

ながさき式見ハイツ(財)長崎勤労総合福祉センター

[フォーラム]

(1) 制振技術と非線形現象(9月16日)

(2) v-BASEフォーラム(9月17日)

(3) モニタリング技術の現状と今後の展開(9月19日)

[見学会]

場所

三菱重工業 長崎造船所

日時

9月19日(金) 9:00～11:30(予定)

対象

学生・学校関係者(定員40名)

申込方法

講演会のホームページ(<http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2003>)をご覧ください。

[部門賞贈呈式・懇親会]

日時

9月18日(木) 18:30～20:30

場所

長崎パークサイドホテル(長崎市平和町14番1号 電話 095-845-3191)

〈爆心地公園, 原爆資料館, 平和公園, 浦上天主堂近く
会費
一般 6000 円 学生 3000 円

[機器・カタログ・書籍展示]

日時

9 月 17 日, 18 日

場所

会場 1 階受付

—各種費用案内—

●参加登録費

正・准員 15000 円(論文集代込)／会員外 23000 円(論文集代込)

学生員 3000 円(論文集代別)／一般学生 5000 円(論文集代別)

(ただし, 本会に入会意思がある方は会員扱いになります.)

●D&D2003 講演論文集代(アブストラクト集&講演論文 CD-ROM)

登録者特価(注1) 6000 円

会員特価(注2) 10000 円 定価 15000 円

(注1)

参加登録者には当日会場受付にて登録者特価で頒布

(注2)

講演論文集のみご希望の方は, 会誌 4 月号 118 ページの行事申込書 (または
<http://www.jsme.or.jp/gyosan0.htm> からダウンロード) 1 枚に必要事項を記入し, 代金を添えてお申
し込み下さい. D&D2003 終了後発送いたします. なお, 本行事終了後は講演論文集の販売はいたしません
ので, 入手ご希望の方は本行事にご参加いただくか, または開催前に予約申込みをして下さい.

●フォーラムその他資料集

会期中, 参加者に実費販売の予定

プログラムなど講演会の詳細は <http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2003> をご覧下さい.

問合せ先

実行委員長

近藤孝広(九州大学)

電話(092)642-3430/FAX(092)631-4789 または (092)641-9744

E-mail : t-kondou@mech.kyushu-u.ac.jp

幹 事

高原弘樹(東京工業大学)

電話(03)5734-3599/FAX(03)5734-3982

E-mail : htakahar@mes.titech.ac.jp

●第1回夏の学校：非線形系のダイナミクスと制御

開催日

2003年9月19日（金）、20日（土）

会場

ながさき式見ハイツ（財）長崎勤労総合福祉センター

趣旨

過去2回開催されて好評を博した学生向け講習会をさらに発展させ、機械力学・計測制御の分野の将来を担う学生や若い研究者を対象として、これらの分野に関連した学問（主として最新のものや基礎的なもの）に泊りがけでじっくりと触れ、勉強してもらうという新たな企画である。第1回目の今回は、近年発展の著しい「非線形系のダイナミクスと制御」を取りあげ、その核心的な部分を入門者でもわかるよう、できるだけ平易に解説する。同じような志をもつ若者が一堂に会して寝食を共にし、また、最前線で国際的に活躍する研究者を交えて互いに議論し懇談するという経験は、個々の参加者の今後の研究に大きな影響を与えるだけでなく、機械力学・計測制御の分野の発展に貢献する人材の育成のため非常に有益なものであろう。

題目・内容・講師

9月19日（金）

13:10～13:20／開校の挨拶 夏の学校 副校長 矢ヶ崎一幸（岐阜大）

13:20～14:50／分岐理論 藪野浩司（筑波大）

15:10～16:40／カオス 矢ヶ崎一幸（岐阜大）

17:00～18:30／カオス制御 山本茂（大阪大）

19:30～21:00／数値解析とソフトウェア 矢ヶ崎一幸（岐阜大）

9月20日（土）

8:30～10:00／力学的非線形制御 藤本健治（京都大）

10:20～11:50／分岐制御 藪野浩司（筑波大）

11:50～12:00／閉校の挨拶 夏の学校 校長 近藤孝広（九州大）

定員

50名

聴講料

D&D参加者：学生員1000円、一般学生2000円、会員6000円、会員外12000円

夏の学校のみ：学生員2000円、一般学生6000円、会員12000円、会員外18000円

（いずれも資料1冊分の代金を含みます。）

宿泊代

実費：7000円（朝食、夕食込）

申込方法

講演会のホームページ（<http://www.jsme.or.jp/dmc/DD2003>）をご覧ください。

お申込、お問い合わせ先

〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

岐阜大学工学部機械システム工学科 矢ヶ崎一幸

電話(058)293-2547/FAX(058)230-1892

E-mail: yagasaki@cc.gifu-u.ac.jp

●第2回評価・診断に関するシンポジウムのお知らせ

近年は機械や設備に対して、これまでに求められてきた「高効率」「低コスト」「高精度」に加え、「高信頼性」「高メンテナンス性」などが求められるようになってきました。また、機械、設備などは、従来のように、古いものを捨てて、新規更新するよりも、少しでも寿命を伸ばすことが求められ、新規の需要よりも、予防保全、健全性点検、改造などの需要が増加しています。生産ラインにおいては、製品の性能、品質を確保するために、オンラインでの計測、評価が重要になってきています。

これらを達成するためには、計測、分析、診断などの技術の開発が不可欠ですが、研究は組織的ではなく、散発的に行われているのが現状です。さらに、これまでこのような情報を交換するようなネットワークそのものも皆無の状態でした。この理由として、産業界においては、この種の技術が重要であるにもかかわらず、企業秘密がからむこと、この種の技術の重要性についての認識が大学には乏しく、またアカデミックでないとして関心を示していないこと、さらに、業種や研究分野を越えてこれらの情報を交換するような場が提供されていないことがあげられます。

本シンポジウムでは、「評価」「診断」に関心を持つ研究者・技術者が集まり、産学官の垣根を越えてニーズとシーズの情報を交換する場を提供するものです。シーズを提供いただくことによりそれを適用できる新たな機会を見出していただくとともに、ニーズにあったシーズを探し出していただく機会ともしていただきたいと願っております。

ご関心をお持ちの方はぜひご参加いただきますようにご案内いたします。なお、詳細は「機械の品質評価と異常診断技術に関する研究会」のホームページ (<http://QEDM.yasuda.nuem.nagoya-u.ac.jp/>) をご参照ください。

開催日

2003年12月3-5日

会場

川崎市産業振興会館（川崎市）

講演募集分野

センサー技術、信号処理、診断、モニタリング、非破壊検査、異常検知、管理、運用、事例紹介

お問い合わせ先

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院工学研究科機械工学専攻 川合忠雄

TEL&FAX: (052) 789-2716, E-mail: kawai@mech.nagoya-u.ac.jp

●D&D2004のお知らせ

来年度のD&D(D&D2004)の日程と会場が、以下のように決まりましたので、お知らせいたします。

日程：2004年9月27日(月)～30日(木)

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス

活発な討論と情報交換の場にしたいと思っております。詳細は部門ホームページに掲載する予定です。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

D&D2004では、オーガナイズドセッション(OS)のテーマを募集いたします。OSを開きたい方は、(1)オーガナイズドセッション名、(2)オーガナイザー氏名(複数の方)、(3)想定講演数、(4)従来のD&DでのOSや、既存の研究分科会・研究会との関係等を明記の上、9月末日までに部門幹事[山本浩(埼玉大学) yamamoto@mech.saitama-u.ac.jp]まで、ご連絡下さい。なお、最終的なOSの決定等は、実行委員会にご一任願います。

●部門の運営と活動 部門幹事 山本浩(埼玉大)

機械力学・計測制御部門は、2003年4月現在で第1,2,3位登録者数を合わせて約6400人となっており、機械学会の21部門の中では流体力学部門に続く第2位と、非常に登録者数の多い部門となっています。

部門の最高責任者である部門長は、運営委員による選挙で選出され任期は1年です。選出後1年間副部門長として部門長を補佐し、翌年度部門長に就任するようになっており継続性が考慮されています。また運営委員は、主に支部より選出された代議員から構成されており、部門長以下総勢33名の運営委員会で部門運営にあたっています。

次に、部門の活動に参加するにはという観点から、具体的な活動内容についてお伝え致します。大きなものとしては講演会が上げられますが、なかでも毎年夏から秋に開催されるDynamics and Design Conference(D&D)は、講演件数が300～400件と機械学会におけるいわゆる部門講演会の中でも大規模なものとなっており、各講演室、機器展示会場など、さらには夕刻以降の懇親会においても活発な意見交換が行われております。D&D以外にも各種シンポジウムや国際会議などが開催されておりますが、いろいろな形で知識と知り合いが増えていくことが、講演会の醍醐味だと思います。講演申込をして研究発表を行う、組織として機器展示を行うなど、参加方法はいろいろありますが、是非一度ご参加頂ければその良さはおわかり頂けると思います。

また部門の活動で重要なものとして、研究分科会および研究会活動があります。前者は特定の研究分野についてのもので、後者はより広範囲なテーマ・領域についてのものです。これらは小規模なものは20～30人で、大規模なものは250人とかかなり所属人数に差がありますが、いずれにおいても、その分野の専門家やその分野に関心のある人が集まり、研究発表、調査、施設見学などの活動を行っています。ちまたでは、いわゆる「異業種交流会」などといわれる催し物もあるようですが、是非、この「同分野交流会」とも言える、機械学会の研究会に参加されることをおすすめ致します。興味のある研究会がありましたら研究会の主査または幹事の方に一度ご連絡頂ければと思います。

これらの活動は大勢参加し、参加者相互のgive and takeにより活発化していく性質のものです。はじめて参加するときはおっかなびっくりになってしまうものですが、まだこの世界に触れていない皆様方におかれましては、是非、はじめの一歩を踏み出して頂けたらと思います。

【常設委員会からのお知らせ】

●表彰委員会からのお知らせ

平成15年度部門賞候補者の公募

機械力学・計測制御部門では部門活性化の一環として部門賞を設けています。本年度は、下記の要領で受賞候補者を募集しますので、ご応募下さるようお願いします（自薦・他薦いずれも可）。

記

1. 表彰名称・対象

1. 1 部門顕彰

- (1) 部門功績賞：部門の発展、活性化に顕著な功績のあった個人
- (2) 部門国際賞：当該分野の国際的学術の発展に寄与、もしくは国際交流に業績のあった個人
- (3) 学術業績賞：当該分野の学術、出版などの業績が顕著な個人
- (4) 技術業績賞：当該分野に関連する技術・システムなどの開発業績が顕著な個人
- (5) パイオニア賞：当該分野の萌芽的研究、学術の発展性が顕著な36才以上の個人

1. 2 部門一般表彰

- (1) 部門貢献表彰：特定の部門の諸活動に関して顕著な成果を挙げ、貢献した個人または団体

2. 応募要領

A4サイズの用紙に下記要目を記入し、郵送願います。

- (1) 表彰名称
- (2) 候補者の所属・部署・氏名
- (3) 推薦理由（200～500字）
- (4) 推薦者の所属・部署・氏名・連絡先
- (5) 参考資料があれば添付する

3. 提出先

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館5階
(社) 日本機械学会 機械力学・計測制御部門 表彰委員会

4. 応募期間：2003年10月20日～12月19日

5. 問い合わせ先

- ・表彰委員会委員長 塩幡宏規(茨城大学)
TEL：0294-38-5021 FAX：0294-38-5047
E-mail：shiohata@mech.ibaraki.ac.jp
- ・表彰委員会 幹事 渡辺 亨(日本大学)
TEL：03-3259-0734 FAX：03-3259-0734
E-mail：toruw@mech.cst.nihon-u.ac.jp

6. 表彰時期・場所：D&D Conference 2004 懇親会の席上を予定しています。

7. 表彰件数

部門顕彰は5賞の候補者の中から6名以内を表彰します。部門一般表彰は表彰人数を特に定めていません。

●講習会企画委員会からのお知らせ 講習会企画委員会委員長 新谷真功（福井大学）

第 81 期の講習会企画委員会では、前期からの継続企画として次のような講習会の準備を進めております。

（１）わかる実験モード解析実用入門 ー実習付きー

担当

長松昭男（法政大学）

講習日

5月28日, 29日（実施済）

場所

日本機械学会会議室

（２）第 1 回夏の学校：非線形系のダイナミクスと制御

（D&D2003 の付随行事）

担当

矢ヶ崎一幸（岐阜大学）

講習日

9月19日, 20日

場所

ながさき式見ハイツ（財）長崎勤労総合福祉センター

（３）流体関連振動ーその防止とトラブルシューティングー

担当

稲田文夫（電力中央研究所），中村友道（三菱重工高砂研究所）

講習日

11月～12月頃を予定

場所

関東地区：日本機械学会本部

関西地区：大阪科学技術センター等

（４）マルチボディダイナミクスの基礎と実用（仮題）

担当

清水信行（いわき明星大学），曄道佳明（上智大学）

講習日

今秋～1月頃を予定

場所

東京

ぜひ、皆様の積極的な参加と関連各位へのご勧誘をお願い致します。

また、来年度に向けて、講習会の意義、あり方を検討して行きたいと考えています。講習会は会員の方、特に企業の方への情報の提供サービスではないかと思っています。当委員会では皆様のご意見をお伺い致しまして、講習会の企画に反映させて頂きたいと思っています。是非、ご希望テーマ、聞きたい講師の方のお名前等をお知らせ頂ければ幸いです。委員長 [新谷真功（福井大学）] または幹事 [堀内敏彦（日立製作所）] までお願い致します。

●出版委員会からのお知らせ 出版委員会委員長 西原 修（京都大学）

情報発信の手段としての WWW は、送り手側にとって低コストで済む一方、インターネットへのアクセスの普及によって、場所、時間帯を問わず簡単に参照可能になってきています。出版委員会としてもこのような利便性の高さを見逃すことなく、活動の方向性を模索していく必要があります。

講演会など行事の会告、プログラムの公開、会場案内では既に部門の Web ページが重要な役割を担っています。しかし、開催された行事の項目はアップデートに伴い早期にリンクが削除される傾向があります。Web ページの見やすさには寄与していますが、講演題目などプログラムに相当する情報は長期間、参照可能としておくことがむしろ自然であり、講演者、学会にとっても有益と思われる。講演会のプログラムなどを、関連の方々との調整によって、整理した形でいわば部門アーカイブに保存することは割合に容易と考えられます。これが実現すれば、次はコンテンツの検索機能が重要です。日本機械学会のホームページでは Namazu による検索機能が提供されており、一部の D&D 講演論文（PDF ファイル）まで検索結果として表示されます。このような、検索機能にしても学会レベルに頼ることなく、こういった部門アーカイブに限定した形で提供すれば、所定の情報が効率よく検索できると考えられます。該当の Web ページを置くプロバイダの運営方針などにより技術的な制約が生じる可能性もありますが、同時に種々の対策をとる余地があります。

今年度の出版委員会としては、昨年度に引き続き、外部の URL 情報についての調査を継続する一方、このような部門が蓄積してきた情報の Web による公開について技術的な側面を含めて調査、検討を進めていき、運営委員会などへの提案、調整を経て実現させたいと考えています。差し当たって、蓄積、公開を検討している対象は、講演会のプログラムに相当して、講演論文集からいえば書誌情報というべき講演論文の著者名、講演題目などです。このような情報は、著作物には該当しないとされているため公開は自由であり、著作権に関連した問題が生じることはありません。このような書誌情報だけであったとしても、部門での研究動向をより広く対外的に公開することにつながり、会員外の Web 閲覧者も学会図書室に文献複写を依頼するなど論文本文を入手する道が開けます。

昨年度の活動では、工学一般、力学、振動・音響、解析ソフトウェアなどについて種々のコースウェア、映像ファイル、Java アプレットなどを整備、公開しているサイトを見つけることができました。このようなリンク情報の公開について検討する過程で、Web サイトの著作権、リンク許諾についての考え方、ディープリンクの可否などが検討課題となりました。このようにして収集したリンク情報により Web 教材リンク集を試作し、部門の Web ページで公開を始めました。